

柏崎市の学校等における保護者への引渡し訓練について

1.目的

柏崎市では、柏崎刈羽原子力発電所の緊急時における児童等の避難が、学校等において策定している危機管理マニュアル等に基づき円滑に行われるよう小・中学校及び保育園を対象に保護者への引渡し訓練を実施している。

令和 2 年度から実施しており、実施状況と今年度の予定は以下のとおり。

		実施済							
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8(予定)	未実施
PAZ	中学校	—	—	—	—	瑞穂中	松浜中	西山中	
	小学校	中通小	荒浜小 (5,6年生のみ)	日吉小	槇原小	二田小	荒浜小②	桜通小② (R8.4中通小と統合、日吉小)	
	保育園	荒浜保	中通保	松波保	(私)はらまち保	(私)にしま保	(私)とうぶ保	荒浜保②	
UPZ	中学校	—	—	—	—	—	三中 南中	鏡が沖中	一中 二中 東中 (R9～統合:第五中・北条中) (県立)翔洋
	小学校	—	大洲小	北条小	新道小	内郷小 鯖石小 田尻小	枇杷島小 北鯖石小 比角小	柏崎小 半田小	西小 (R8.4統合:剣野小・鯉波小・米山小)
	保育園	—	西部保	鯖石保	高田保	北鯖石保	柏崎保 北条保	田尻保 大洲保	私立9園・幼稚園1
実施施設数		2	4	4	4	7	10	8	
(内訳)	中学校	0	0	0	0	1	3	2	
	小学校	1	2	2	2	4	4	3	
	保育園	1	2	2	2	2	3	3	

2.訓練内容

原子力災害発生時の保護者への引渡し及び広域避難手順の確認

- ・ 柏崎市原子力災害対策本部と学校等の連絡手順、バス手配手順の確認
- ・ 学校等から保護者への連絡手順の確認（迎え要請、保護者への引渡し）
- ・ 引き渡せなかった児童等の教職員引率によるバス避難
- ・ 安定ヨウ素剤の持ち出し手順の確認

訓練の様子



学校での保護者への引渡し



引渡しできなかった児童等のバス避難訓練の様子

3.学校等からの主な意見等（R7 年度分）

○保育園

- ▶ 保護者に引渡しまでの時間が長いため、子どもたちを不安にさせないよう対応を考える必要があると感じた。
- ▶ 確実な引渡しのため、同姓同名の場合にはクラス名と名前をはっきり伝える。
- ▶ 職員間の連携と、予期せぬ事態が発生した場合の臨機応変な対応が求められると感じた。
- ▶ 引渡しができず園で待機する園児が多かったり、職員の人員が不足したりすることを考えると、マニュアルに沿って対応できるか不安である。
- ▶ 原子力防災訓練に関心の低い保護者が多いと感じた。訓練の重要性を周知して実施できるとよい。

○小学校・中学校

- ▶ 保護者、学校、自治体で訓練をしたことでシミュレーションもできた。子どもたちも事前学習を経て訓練を行ったので、真剣に落ち着いて行動していた。
- ▶ 中学校区で訓練することは実際に即することができよかった。引渡し方法は保護者の混乱を招かないよう統一したほうがよいと感じた。
- ▶ 訓練に参加し、具体的な動きや担当の役割を確認できた。しかし、地震や津波などの災害とは異なる点に戸惑った。児童等、保護者に対し、望ましい対応について学んでいきたい。
- ▶ 季節や気候によって臨機応変に対応することが大切だと感じた。
- ▶ 教育委員会からの連絡は職員室で対応したが、児童や保護者の様子が把握しにくい。管理職の携帯電話、もしくは業務用の携帯電話やＩＰ電話などで連絡できるネットワークが構築されるとよい。
- ▶ 実際には市職員と様々な場面で連携していくこととなるが、どのようになるのかまだ分からず、不安がある。

4.訓練で見えた課題と対策

・継続した訓練の実施について

【課題】令和2(2020)年度から引渡し訓練を開始し、保育園、小学校及び中学校において、順次訓練を実施しているところである。しかしながら、ＵＰＺ内は訓練未実施の学校等が残っているため、訓練を実施する学校等数を増やしながら、実施していく必要がある。

【対策】訓練計画を作成し、学校等と調整を行い、計画的に訓練を実施していく。

・事前の原子力防災講座の実施について

【課題】児童等や保護者の原子力防災に関する理解促進を図るために、原子力災害時の避難を体験するだけでなく、事前に避難方法等の説明し、訓練効果を高めていく必要がある。

【対策】引渡し訓練の実施前に児童等を対象に原子力防災講座を実施する。

以上